令和8年産 『耳納連山れんげ米』づくり基準 （田主丸町耳納山麓水系地帯）

人と自然の架け橋に。
JAにじ

重点事項

1．健全な苗づくり	①種子更新100％　②うす播き（催芽籾1合3勺(150g)/箱）　③ずんぐり苗（25日苗、３葉苗）
2．健康な土づくり	①緑肥レンゲのすきこみ　②土壌改良資材の投入　③深耕　④稲わらのすきこみ
3．安全な米づくり	①減農薬栽培　②減化学肥料栽培（緑肥レンゲ、有機入り肥料）
4．おいしい米づくり	①レンゲすきこみ量・生育に応じた施肥　②適期収穫　③適正な乾燥・調製
5．安定した米づくり	①植え付け株数60株/坪　②早期地干し、中干しの徹底　③気象変動に対応した管理

『化学合成農薬使用回数10成分以内』 『化学肥料施肥量（窒素成分）4.25kg/10a以下』

月・旬		生育	主な作業
5月	上	育苗期	・レンゲすきこみ ・温湯消毒
	上		・播種 ・土壌改良資材投入 珪鉄、粒状ミネラルG、 珪酸カリ
	中		
	下		
	下	移植期	・基肥 ・耕起、代かき ・育苗箱施薬（ブーンクロノス箱粒剤 又は、ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤）
6月	上		・移植
	上	活着期	・浅水管理
	中		・除草剤散布
	中		・間断かん水 （地干しによりガス抜きをする）
	下	有効分げつ期	
7月	上		
	中	無効分げつ期	・中干し （茎数20本／株から）
	下		
	下	幼穂形成期	・湛水 ・穂肥 （出穂20～18日前）
8月	上		
	中		・間断かん水
	中	出穂期	
	下		
	下	登熟期	・スタークル粉剤DL 又は、 スタークル顆粒水溶剤
9月	上		
	中		・落水
	下	成熟期	・収穫 ・乾燥 ・調製
10月	上		
	中		・耕起 ・レンゲ播種
	下		

品種特性

移植時期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	耐倒伏性	穂発芽性	外観品質	食味	10a当玄米重 kg/10a	耐病性 いもち	耐病性 白葉枯
5･28～6･4	8･20	9･27	85	19.0	350	やや弱	難	上の下	上の中	480	やや弱	やや弱

レンゲすき込み量の目安

①レンゲ草4kgの場合 ➡ 4トン
②レンゲ草3kgの場合 ➡ 3トン
③レンゲ草2kgの場合 ➡ 2トン

1m×1mのレンゲ草の地上部の生草重量（4月中下旬）





温湯消毒

①温湯消毒後、直ちに播種しない場合は、籾を水分15%以下の乾燥状態にした後、通気性の良い冷暗所で保管すること。
②温湯消毒後は、病原菌が付着しないように十分注意すること。

施肥基準

◎有機エムコート256を施用する場合は、穂肥は施用しない。（化成分は4.25以内に抑える）

（10ａ当たり施用量）

土壌改良資材	4月中下旬の生育量と生え具合（10a地上部生重）	基肥 有機エムコート256（12-5-6）	穂肥	窒素成分 全窒素量	窒素成分 うち化成分
珪鉄又は粒状ミネラルG 200kg 又は 珪酸カリ 40kg	生育旺盛、均一にびっしり（4トン以上）	40kg	――	4.8	2.4
	生育旺盛、均一 （3トン）	50kg		6.0	3.0
	生育中程度、7割生え （2トン）	60kg		7.2	3.6
	4月中下旬の生育量と生え具合（10a地上部生重）	基肥 スーパーユーキくん1号（10-8-8）	穂肥 スーパーユーキくん3号（10-3-8）	窒素成分 全窒素量	窒素成分 うち化成分
	生育旺盛、均一にびっしり（4トン以上）	20kg	8月1日頃 30kg	5.0	2.45
	生育旺盛、均一 （3トン）	30kg		6.0	2.94
	生育中程度、7割生え （2トン）	40kg		7.0	3.43

注１）基肥はレンゲすきこみを移植前30～20日前にした場合です。
　２）窒素成分には、レンゲ草の窒素分は含んでいません。

除草剤使用基準

除草剤使用はいずれかの１剤を１回以内とします！

選択例	除草剤名	成分数	10a当たり使用量	使用適期（移植後日数）	効果のあるノビエ葉齢	留意点
1	ゼータプラスフロアブル	2	500㎖	3～12日	4.0葉まで	畦畔から散布する場合には、ノビエ3.0葉期までに使用する。
2	ゼータプラス1キロ粒剤	2	1kg	0～12日	4.0葉まで	クログワイ･オモダカは、発生前～発生始期までに使用する。 セリは、再生前～再生始期までに使用する。
3	ゼータプラスジャンボ	2	10パック	3～12日	4.0葉まで	

病害虫防除基準

基本防除は下記資材を適期に使用!

	農薬名	成分数	使用量	防除適期	留意点
基本	ブーンクロノス箱粒剤 又は、ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤	3	育苗箱 1箱当たり50g	田植3日前～田植前日	・1箱当たりの使用量が少なすぎると効果が落ちる。 ・散布後はかん水し、剤を落ち着かせる。
補正	スクミンベイト3	0	2～4kg	田植直後	・ジャンボタニシによる食害を防ぐ。
補正	オリゼメート粒剤	1	3～4kg/10a	出穂3～4週間前	・白葉枯病の常発地は防除する。
補正	ノンブラスバリダ粉剤DL 又は、ノンブラスバリダフロアブル	2	3～4kg/10a 1,000倍 100ℓ/10a	出穂直前 収穫14日前まで	・いもち病発生初期や紋枯病による収穫減を防ぐ。
基本	スタークル粉剤DL 又は、スタークル顆粒水溶剤	1	3kg/10a 2,000倍 100ℓ/10a	穂ぞろい期の7～10日後	・ミナミアオカメムシに効果がある。

注１）箱施薬は、田植3日前～田植前日。（効果を安定させるため、できるだけ前日までに散布する。）なお、散布後は茎葉に付着した薬剤を床土に落とした後に水をかける。
　２）カメムシ対策として出穂14日前までに畦草刈りは実施します。

れんげ米は特別栽培米であり、農薬の成分数は、最高で10成分以内しか使用できませんので、ご注意下さい。
農薬の登録は、随時変更されています。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認しましょう!

≪レンゲ栽培のポイント≫

1．目　的
①地力増進・環境保全型稲作　②景観向上　③コストの低減　④養蜂支援　⑤米販売促進

2．レンゲの生育を良くする秘訣
①土壌 pHが5.2以下（酸性）の田は石灰質資材を散布する　②耕起は均平に行う
③排水不良田は排水溝をつくる

3．レンゲの播種
①播種時期……原則、稲刈り後、耕起し、播種する。（10月中旬～下旬）
播種は耕起してすぐか、すぐ播種ができない時は、雨が降る前日又は雨が降った翌日に行う。
稲の立毛中に播種の場合は刈り取り前15日～稲刈り直前までに（播種量３割増）。
レンゲ連作ほ場で播種時期を早くすると、すき込む前に害虫に食べられてしまうので、11月に播く。
②播 種 量……10a当たり３kg（１㎡当たり３ｇ）
③播種方法……稲刈り後播種は、ロータリーで浅耕した後に散粒機又は手で播種する。軽く鎮圧すると発芽が良くなる。

4．レンゲのすきこみ
①レンゲのすきこみ時期……田植えの30～20日前が最適期。４月下旬～５月上旬頃の花の満開直前～田植え２週間前。
②すきこみ後、レンゲの分解のため最低１週間は田に水を入れないよう注意。

この栽培暦は、JA米の生産基準を兼ねています。栽培履歴報告書に記入漏れや間違いがないか確認しましょう。JA米とそれ以外を区分してJAに出荷しましょう。

JAにじ管内農業振興協議会

久留米市田主丸町産業振興課 ☎72－2111
ＪＡにじ営農部 ☎75－4200
JAにじ営農センター田主丸 ☎72－1150
久留米普及指導センター ☎0942－47－5101

令和8年1月作成